

(仮称) 仙台空港の経営改革に関する宮城県基本方針(案)の概要

1 策定の趣旨

【背景】

- 国の空港経営改革の動き
- 国管理の仙台空港の活性化により、復興の起爆剤へ
- 「地域活性化の核となる真に魅力のある空港の実現」は、国と民間(空港運営権者)のみならず、県を始めとする地域の連携が不可欠

【目的】

- 仙台空港の経営改革に関し、県の基本的考え、民間(空港運営権者)への期待、国への要望を示すもの

2 仙台空港の現状

【概要】

- 旅客数、貨物取扱量とも年々減少
(H18) 339万人 → (H21) 280万人、(H12) 2.4万トン → (H21) 1.4万トン
- 震災で甚大な被害 → 半年後に空港ビル復旧・国際便再開 → 復興の象徴

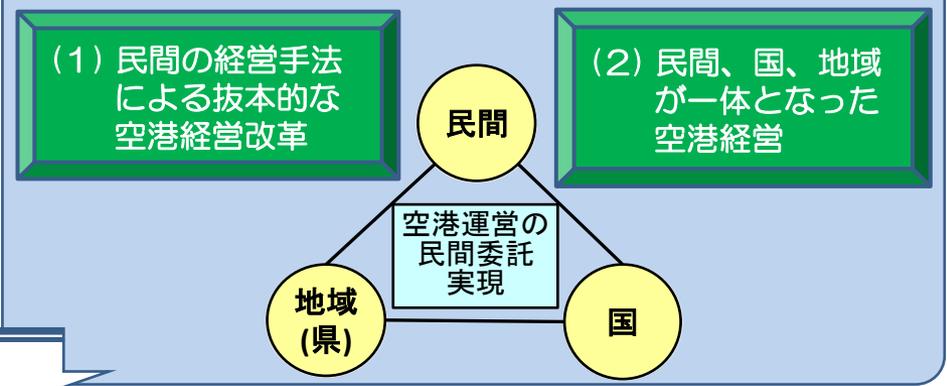
【特徴】

- ① 3,000m滑走路等恵まれた空港施設、② 政令市仙台・東北各地にアクセス至便、③ 後背圏に多彩な観光資源、④ 豊富な食材と産業集積、⑤ 空港周辺地域に開発可能な土地の存在

3 仙台空港に求めるもの【あるべき姿】

- (1) 多くの旅客や貨物で賑わう空港
- (2) 東北地方の復興と発展を牽引する空港
- (3) 民間の力を活用した地域と共に発展する空港

4 仙台空港の経営改革の実現に向けて【戦略】



5 空港運営権者への期待

- 民間の知恵を最大限に生かした航空旅客及び航空貨物の増大
➡ **600万人/年・5万トン/年**
- 航空系事業及び非航空系事業の全体最適化
- 国や地域と協力・協調した空港経営など

6 国への要望

- 空港運営権者の顧客志向に基づく経営戦略の尊重
- 空港経営改革の制度設計及び事業者選定への県の意向の反映
- リスク・コスト分担の明確化
- 空港運営の継続性の確保 など

7 県の取組

- 仙台空港の経営改革に向けた関係者との対話及び調整
- 空港運営権者や国と協力・協調した空港経営のための環境づくり
- 航空需要の喚起・創出 など